

NISAの認知度上昇と税制優遇措置拡充に期待!
商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人はNISA
の最新動向を参考にしてほしい。

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

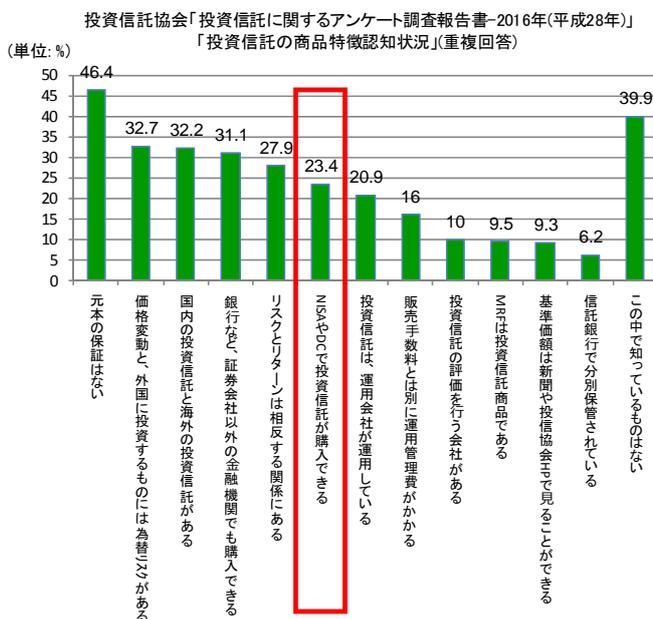
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

**NISA や DC で投信が購入できる事を知っている人は 23.4%(6位)で、
税制優遇措置が拡充してきたら投信購入検討のきっかけとする人は 15.4%(4位)**

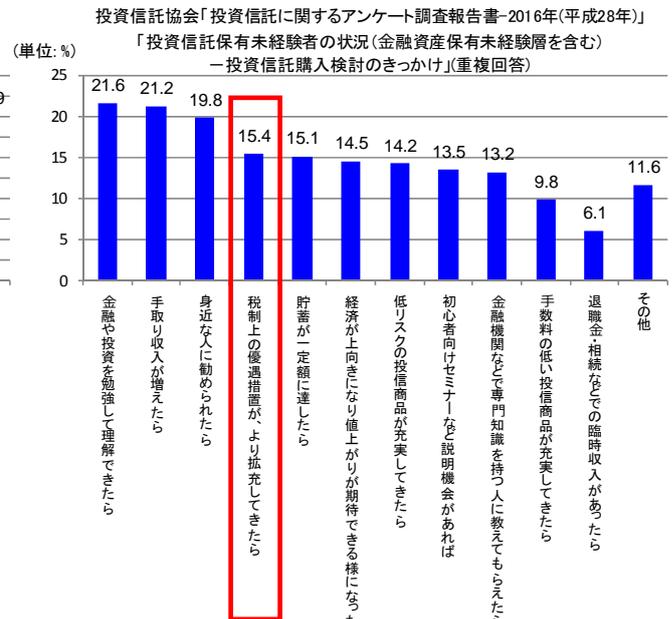
2016年12月13日(火)に投資信託協会が「投資信託に関するアンケート調査報告書-2016年(平成28年)」を公表した(URLは後述[参考ホームページ])。その中の「投資信託の商品特徴認知状況」で「NISA(少額投資非課税制度)やDC(確定拠出年金)で投資信託が購入できる」の認知率が23.4%であった事がわかった。まだまだNISAの仕組みについての理解は不十分の様で、NISA及び投信、投資について広く理解してもらうよう、今後一層の業界努力が必要である事を感じるものである。

また、「元本の保証はない」の認知率が46.4%と2015年の69.3%から急低下している。ただこれは2015年の調査結果が「金融関心層向け全国調査/郵送調査」による所が大きいと思われる(後述※1)。2014年・2013年の「一般向け東阪調査結果/調査員による訪問留置、訪問回収」では各々44.2%・46.5%だったので、2016年の「全国調査/インターネット調査」は概ねその水準となっている。

2016年の調査結果に「投資信託保有未経験者の状況(金融資産保有未経験層を含む) - 投資信託購入検討のきっかけ」と言うものもある。ここに「税制上の優遇措置が、より拡充してきたら」と言う項目が増え、それが15.4%で4位となっていた。きっかけになりやすそうな「経済が上向きになり値上がり期待できる様になったら」の14.5%/6位より高いのは注目だ。これはNISAが拡充する方が値上がり期待より投信購入検討のきっかけとなると考える人が多いと言う事である。2018年1月から積立NISAが創設される見込みだが(12月12日付日本版ISAの道 その166 参照~URLは後述[参考ホームページ])、さらなる税制上の優遇措置拡充に期待がかかる。



(出所: 投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書」より
三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

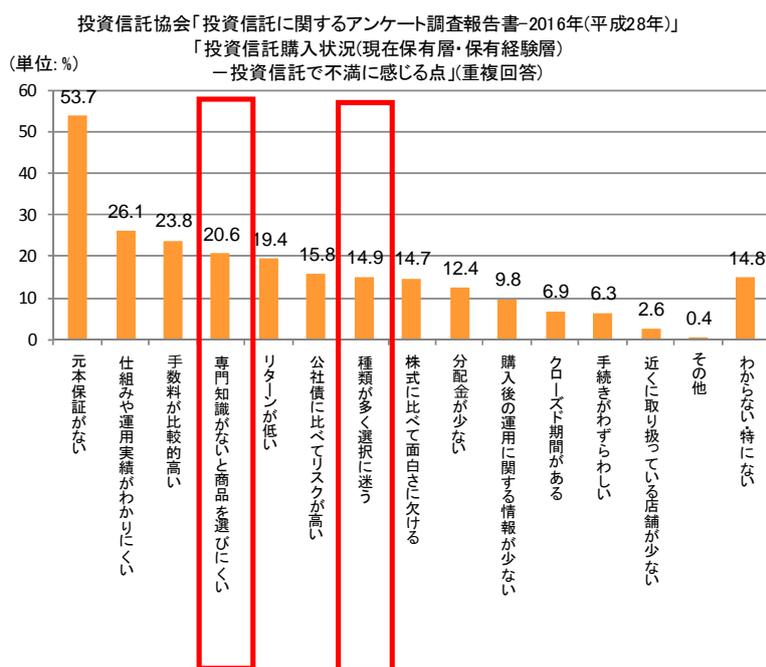


(出所: 投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書」より
三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

※1: 「投資信託に関するアンケート調査報告書-2016年(平成28年)」…調査時期は2016年9月16日～30日、調査対象は首都圏、阪神圏、その他地域に居住する20～79歳の男性9917人と女性10083人の20000人(*投資信託保有者層や投資信託保有関心者層に限定せず)。投資信託協会の「投資信託に関するアンケート調査報告書」は、これまで「金融関心層向け全国調査/郵送調査」が3年ごと(2015年、2012年、2009年、2006年)、「一般向け東阪調査結果/調査員による訪問留置、訪問回収」が上記の年以外(2014年、2013年、2011年、2010年、2008年、2007年)だった。2016年は「全国調査/インターネット調査」である。その他、調査実施会社が2006年からの日本リサーチセンターより株式会社インテージに変わっていた。さらなる詳細は投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書」を参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人はNISAの最新動向を参考にしてほしい: 既存投資家のREIT人気が減退、アジア株や米国大型ブレンド株等へ

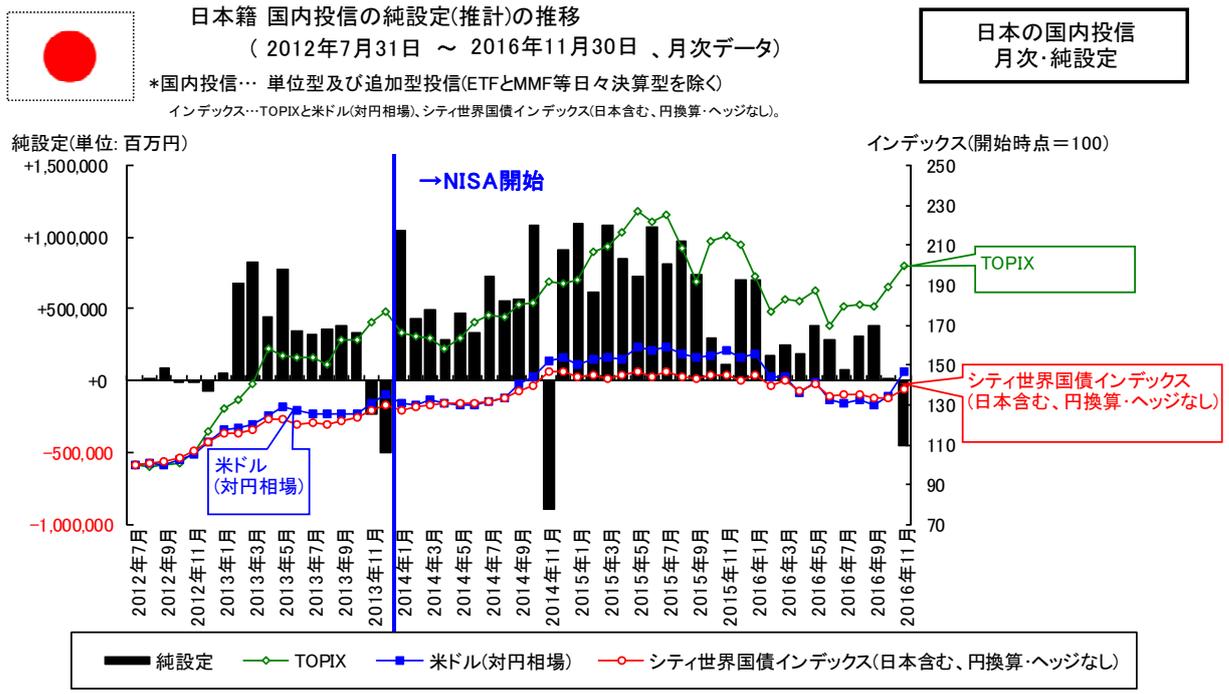
前頁の「投資信託に関するアンケート調査報告書-2016年(平成28年)」の「投資信託購入状況(現在保有層・保有経験層)－投資信託で不満を感じる点」には「**専門知識がないと商品を選びにくい**」が20.6%で4位、「**種類が多く選択に迷う**」が14.9%で7位となっていた。



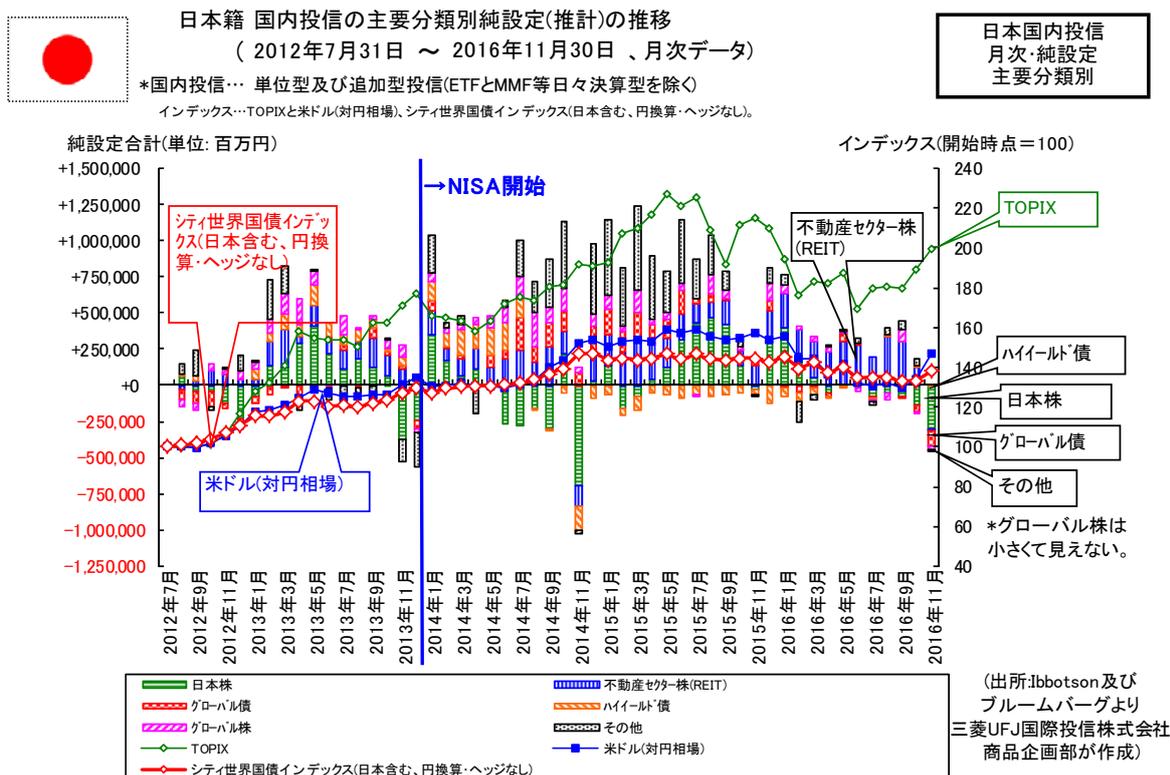
(出所: 投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書」より
三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人は確かに多いとは思う。ぜひここは、NISAの最新動向を参考にしてほしいものである。

投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者層(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※2参照)で代替する。



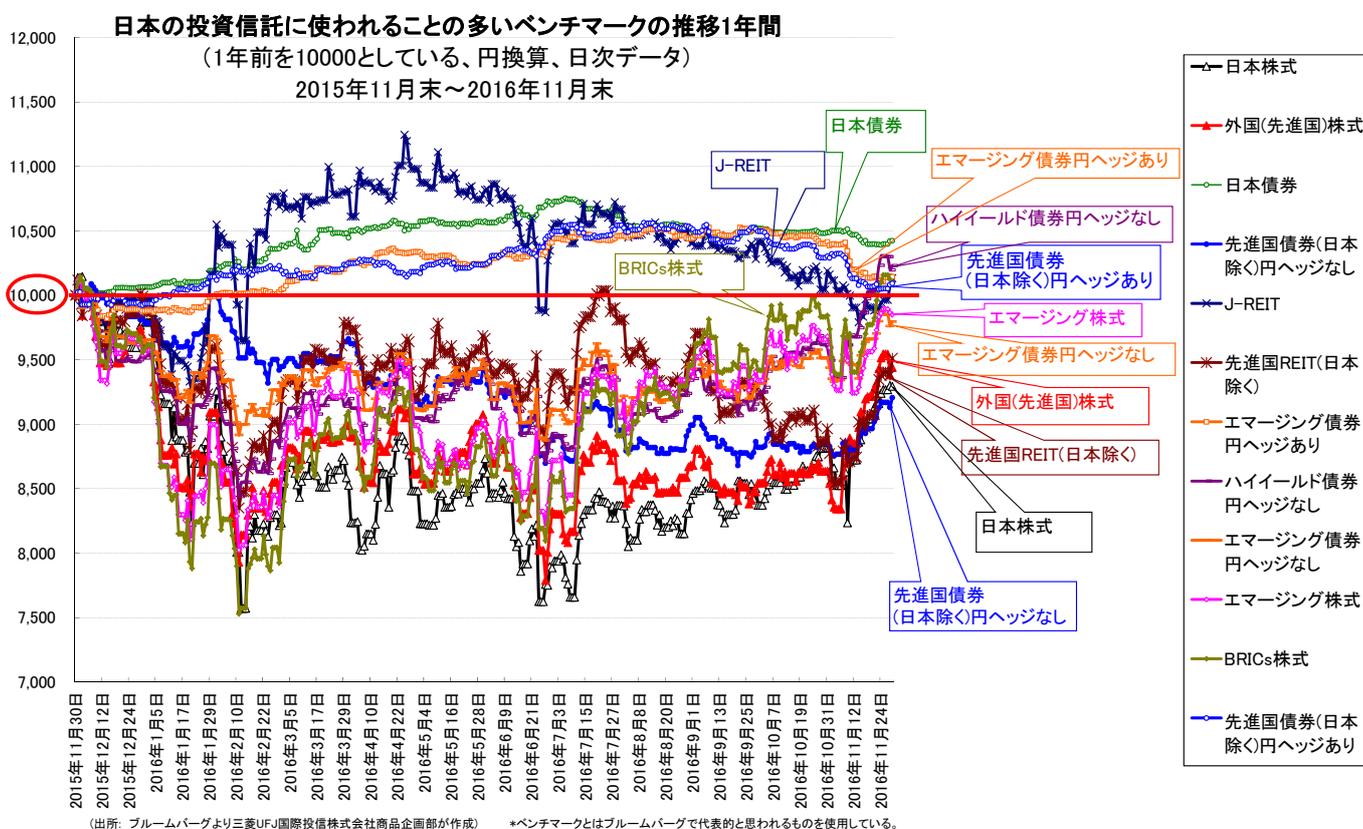
まず既存投資家を示す投信全体の純設定は2016年11月に-3452億円と2014年11月以来2年ぶりの純流出だった(*2014年11月純設定は-8920億円と11カ月ぶりの資金純流出)。投資対象(主要分類)別で見ると、投信全体が純流出の中、2016年11月に最も純設定の大きかったのは、アジア株、米国大型ブレンド株、アセットアロケーション標準型だった(下記グラフ参照 *主要分類…モーニングスター分類で2015年12月末の純資産の大きい上位5分類。アジア株、米国大型ブレンド株、アセットアロケーションは「その他」に含まれる)。



2016年10月まで8カ月連続の純設定額1位で、2016年1月～10月は既に+2.4兆円の純流入となっていた不動産セクター株(REIT)は、11月の純設定額が-43億円と、2年ぶりの純流出となった。要因としては「米大統領選で共和党のドナルド・トランプ氏の勝利を受けて米国の長期金利が上昇。その影響で米国のREIT相場は軟調な展開となり、REIT投信への資金流入は細り始めていた。」(2016年12月2日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ])と言う事、国内最大のREITファンドが11月に2012年12月以来の分配金引き下げをした事などが報じられている。

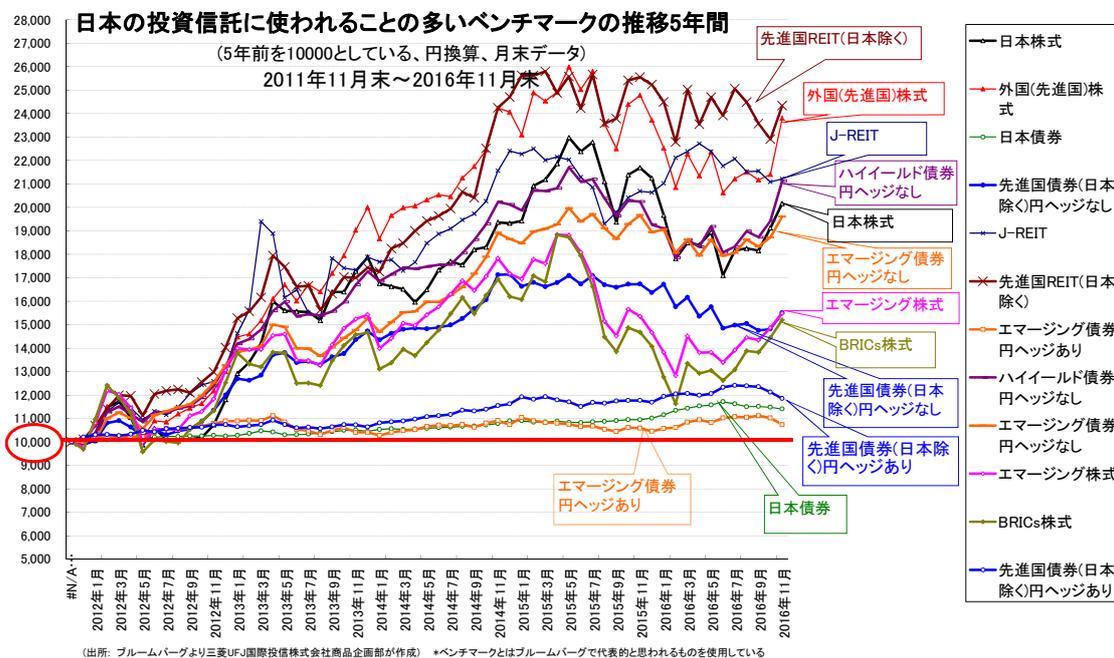
一方、日本株は11月に-2970億円と5カ月連続の純流出で、純流出額は2年ぶりの大きさだった。日本株は、前年2015年から2016年も初めまでは好調な純流入だったが、7月から純流出となり拡大している。11月は米大統領選挙後の株高による利益確定の売りが大きかったと思われる。

日本の投信の純設定とパフォーマンスの関係はどうだろう？ 投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、下記グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、国内債券、ハイイールド債円ヘッジなし、J-REIT、BRICs株式、エマージング債円ヘッジあり、となっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。日本株のパフォーマンスは1年で見れば、下記グラフのベンチマークで下から2番目だが、2016年5月末からの半年や11月の1ヶ月で見ると4番目に良い(最も良いのが先進国株式、次いでハイイールド債円ヘッジなし、先進国REIT)。



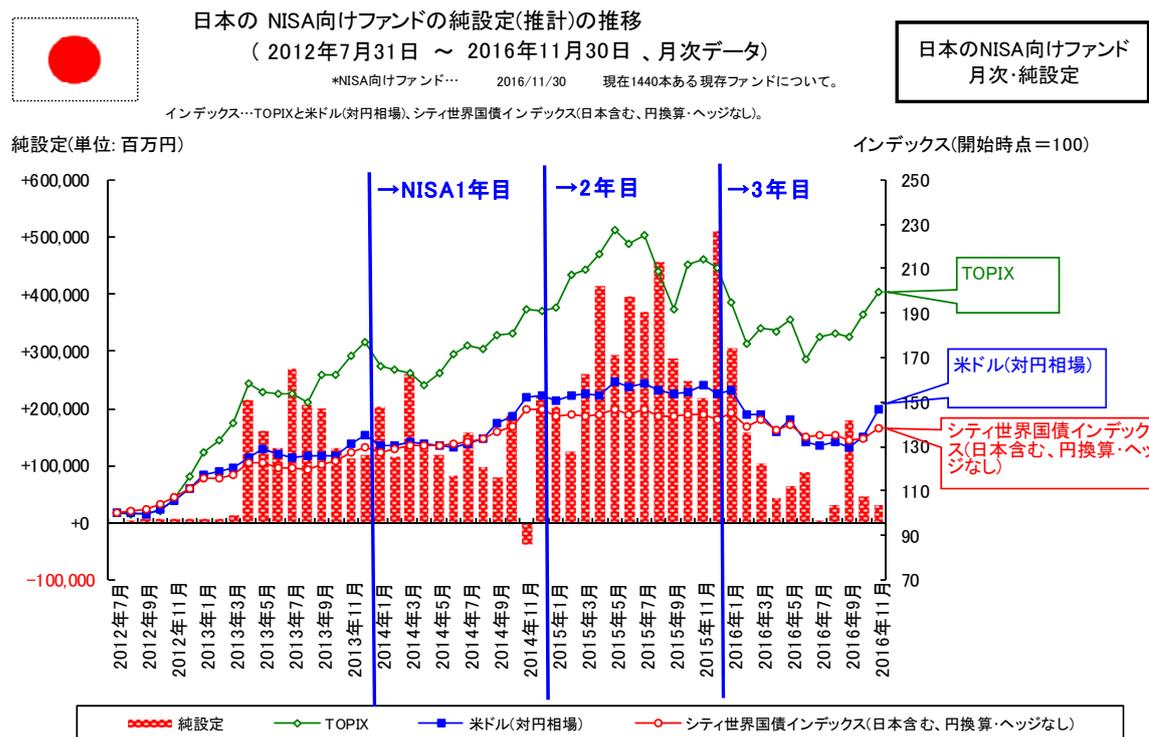
次頁のグラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国REIT、先進国株式、J-REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、日本株式となっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。

先進国 REIT のパフォーマンスは 3 年、5 年で見れば良いが、2016 年 5 月末からの半年で見ると、下記グラフのベンチマークで下から 4 番目 (J-REIT は最低) だった。



商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人は NISA の最新動向を参考にしてほしい: NISA 向けファンドの人気はアセットアロケーションなど

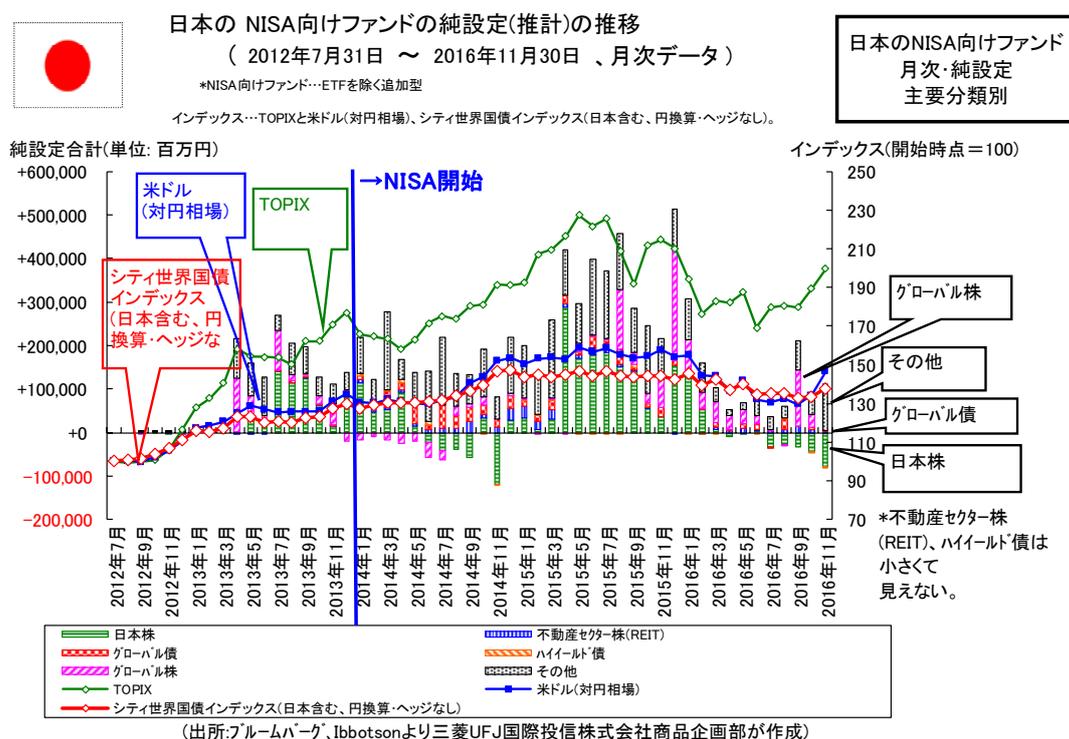
次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。既存投資家の動向を示す投信全体では 2 年ぶりの純流出となったが、NISA 向けファンドの純設定は、最新 2016 年 11 月は+298 億円と前月 10 月の+441 億円を下回り 2 ヶ月連続で減少するものの、純流入が続いている。



※2: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2016 年 11 月 30 日時点で 1440 本となった。

投資対象(主要分類)別で見ると、11 月の純流入 1 位は米国大型ブレンド株(10 月 10 位)、2 位はアジア株(同 28 位)、3 位はアセットアロケーション柔軟型(同 2 位)となっている(いずれも下記グラフで「その他」に含まれる)。

1 位の米国大型ブレンド株や 2 位のアジア株は、新規設定された一部ファンドによる所もあるが、3 位のアセットアロケーション柔軟型は、2016 年の年初来でも 2015 年(1~12 月)の間でも 2 位となるなど、継続して資金純流入となっている。一方、日本株は、2015 年に純設定最大で、2016 年 1 月頃まで純設定全体の半分を占めていたが、11 月は-797 億円と、既存投資家と同様、5 カ月連続の純流出となった。



商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人は NISA の最新動向を参考にしてほしい: ネット証券での人気はグローバル株・日本株

最後に、各証券会社の集計結果を見る。2016 年 12 月 8 日現在で、各社 HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新 NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社が HP で公表する最新の内

容を紹介する。NISA 口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URL は後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新 2016 年 11 月の NISA 口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト 10 を発表しており、1・5 位はグローバル株ファンド、2・3 位は日本株ファンド、4 位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(1・3・5 位はインデックスファンド)。前月 10 月は、1・5 位はグローバル株ファンド、2 位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・4 位は日本株ファンド(1・4・5 位はインデックスファンド)だった。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週 11 月 28 日から 12 月 2 日までは、1・4・5 位はグローバル株ファンド、2・3 位は日本株ファンド(2 位を除いて全てインデックスファンド)。一ヶ月程前の 10 月 24 日から 10 月 28 日までは、1・4 位は不動産セクター(REIT)ファンド、2 位はグローバル株ファンド、3・5 位は日本株ファンド(2・5 位はインデックスファンド)だった。

○最大手である SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 11 月 28 日から 12 月 2 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・5 位はグローバル株ファンド、2 位はアセットアロケーションファンド、3・4 位は日本株ファンドとなっている(1・2・5 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 10 月 24 日から 10 月 28 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・5 位はグローバル株ファンド、2・3 位は日本株ファンド、4 位はアセットアロケーションファンド(1・2・5 位はインデックスファンド)だった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、11 月 28 日から 12 月 2 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1 位はグローバル株ファンド、2・5 位は日本株ファンド、3・4 位は不動産セクター株(REIT)ファンド(1・2 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 10 月 24 日から 10 月 28 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1・3・4 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、5 位は不動産セクター株(REIT)ファンド(1・2 位はインデックスファンド)だった。

<ジュニア NISA 投資信託>

○SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 11 月 28 日から 12 月 2 日までの取引をもとにしたジュニア NISA の投資信託・買付金額の 1・5 位はグローバル株ファンド、2・3 位はアセットアロケーションファンド、4 位は日本株ファンドとなっている(4 位以外全てインデックスファンド)。一ヶ月程前の 10 月 24 日から 10 月 28 日までの取引をもとにしたジュニア NISA の投資信託・買付金額の 1・4・5 位はグローバル株ファンド、2 位はアセットアロケーションファンド、3 位は不動産セクター株(REIT)ファンド(1・2・5 位はインデックスファンド)だった。

<NISA 積立～2016 年 12 月 8 日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2016 年 11 月の NISA 月間積立契約件数ランキングを出しており、1・2 位は日本株ファンド、3・4 位はグローバル株ファンド、5 位はアセットアロケーションファンドとなっている(*7～10 月と順位は同じ。1・3・4 位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、最新週 11 月 28 日から 12 月 2 日までの NISA 口座では、1・2 位はグローバル株ファンド、3・4・5 位は日本株ファンドとなっている(*4 位以外全てインデックスファンド)。

ネット証券では、11月は引き続きグローバル株や日本株の人気が見られ、不動産セクター株(REIT)人気は前月までに比べて後退している。また、インデックスファンド人気も強まっているようである。

以上、2016年11月にNISAで投資された先を、既存投資家、新規投資家、ネット証券などの順で見てきた。既存投資家、新規投資家、ネット証券いずれもグローバル株が人気だった。NISA向けではアロケーションファンドも継続して人気だった。ネット証券では積立も含めてグローバル株に次いで日本株も人気だった。また、インデックスファンド志向の強まっていることもネット証券で見られた。

もちろん、今後を示すものではないが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」が多いと思われる現行NISAやジュニアNISA等を検討する投資家の参考になれば幸いである。

以上

[参考ホームページ]

2016年12月13日(火)付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2016年(平成28年)」…
「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2016/>」、
「投資信託に関するアンケート調査報告書」…「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research/>」、
2016年12月12日付日本版ISAの道 その166「税制改正大綱発表! 20年の積立NISA創設!!~現行NISA vs 積立NISA vs ジュニアNISA、積立NISAの理解、現行NISAの『2018年/2019年問題』が改善~」…
「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_161212.pdf」、
2016年12月2日付日本経済新聞電子版「売れ筋の海外REIT投信、販売が変調」…
「<http://www.nikkei.com/article/DGXMZO10117510Q6A131C1000000/>」、
2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、
SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、
楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」、
マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。